

# 登山月報



第20回日本ユース選手権リード競技2017報告	2
第11回山岳スキー競技日本選手権大会 開催報告	3
第102回 Mountain World	5
山の日がながわ2016 in 陣馬山実施報告	6
山と渓谷社で第7回日本山岳遺産サミット開催	7
UIAA理事会報告	8
UIAA医療部会出席報告	9
平成29年度スポーツライミング部委員総会兼研修会	11
JMA、寄贈図書、編集後記	13

# 第20回日本ユース選手権リード競技2017報告

印西市松山下公園総合体育館で3月26,27日に開催予定であった「スポーツクライミング第20回日本ユース選手権リード競技千葉大会2017」が、クライミングウォールの修理工事という緊急事態により、当初の予定より3週間遅れて4月15,16日に開催され、全国から集まった男子110名、女子106名の選手により、国際ユース大会リード日本代表を争っての熱い戦いが繰り広げられた。

この大会は、JFA主催の学生選手権として始まり、その後ユース選手権としてJOCジュニアオリンピックカップ大会と並ぶユース世代の全国大会として定着し、日本代表選手選考大会として主催がJFAからJMAに移行し、会場もいくつかの民間施設から、国際アウトドア専門学校、幕張総合高校、東久留米市体育館などを経て、印西市松山下公園総合体育館で7年目の開催となった。

低年齢の選手数が増え、今年は女子ユースCでは申し込み開始後すぐに定員を超える事態となったため、開催要項では昨年同様に男子ユースCは女子ルートで予選競技を行うこととしてユースCを除いた男子の選手数と女子全員に男子ユースCを加えた選手数を110名ずつ募集していたところを、できるだけ多くの希望選手を受け入れる方法を検討し、予選は男女別に全グループを基本的に同じルートで実施することとした。現在の選手数のバランス、選手の実力を考えると、今後もこの方法が適していると思われる。

競技は、1日目にフラッシングで行われた予選から男女とも高難度のルートとなり、女子で予選2本共に完登したのはジュニアの田嶋あいか選手(三重)と今年からユースBとなった森彩秋選手(茨城)の2名のみ、男子はジュニアの中上大斗(福岡)、大高伽耶(東京)、原田海(大阪)、ユースAの田中修太(新潟)の4選手で



各カテゴリーの入賞者

あった。

2日目は、最初に行われたユースC決勝で、男子は予選で圧倒的な力を見せた田中裕也(岐阜)が安定した登りで昨年に続いて優勝し、2位も昨年に続いて村下善乙(千葉)。女子では美谷島ももか選手(東京)と小池はな選手が同高度となり、予選へのカウントバックで美谷島選手が初優勝。ルートを手直して行われたジュニア、ユースA、ユースB共通ルートでの決勝は、男子ジュニアは中上大斗選手が力強い登りで多くの選手が苦労した箇所を突破して終了点に迫り、惜しくも完登こそ逃したが、2位の大高伽耶選手以下に差をつけての優勝。ユースAでは田中修太選手が中上選手と同じ位置で完登を逃すも、2位の中島大智選手以下に大きく差をつけて優勝。ユースBでは、抜井亮英選手が実力者の西田秀聖選手ら3選手に一手差という僅差での初優勝。

女子はジュニアでは田嶋あいか選手が実力を発揮して、2位の戸田萌希選手(山梨)らに大きく差をつけて優勝し、ユースAでは小嶋果琳選手(岐阜)が、2位の樋口結花選手(佐賀)らを抑えての初優勝、最後に行われたユースB決勝は森彩秋選手が男女を通じてただ一



人完登して会場を沸かせ、予選からの3本をすべて完登という完全優勝を達成した。

国内ではボルダリングに比べて圧倒的に練習施設の少ないリード競技であるが、代表に選ばれた選手の皆さんには、工夫して練習を重ね、国際大会で大きな成果を上げられることを期待したい。出場選手数と入賞者は以下の通りである。(目次俊雄)

【男子】	ジュニア (19名)	ユースA (37名)
1位	中上 大斗 (福岡)	田中 修太 (新潟)
2位	大高 伽耶 (東京)	中島 大智 (岩手)
3位	本間 大晴 (埼玉)	川畑イサム (鹿児島)

	ユースB (38名)	ユースC (16名)
1位	抜井 亮瑛 (奈良)	田中 裕也 (岐阜)
2位	西田 秀聖 (奈良)	村下 善乙 (千葉)
3位	川又 玲瑛 (栃木)	上村 悠樹 (東京)
【女子】	ジュニア (19名)	ユースA (24名)
1位	田嶋あいか (三重)	小島 果琳 (岐阜)
2位	戸田 萌希 (山梨)	樋口 結花 (佐賀)
3位	森脇ほの佳 (大阪)	倉菜 々子 (愛知)
	ユースB (32名)	ユースC (31名)
1位	森 彩秋 (岐阜)	美谷島ももか (東京)
2位	谷井 菜月 (奈良)	小池 はな (埼玉)
3位	平野 夏海 (東京)	井土 桜花 (北海道)

## 第11回山岳スキー競技日本選手権大会 開催報告

日山協が日本山岳・スポーツクライミング協会と改称した4月1日(土)から2日(日)にかけて、長野県北部の栂池高原上部の山域を会場に、第11回山岳スキー競技日本選手権大会を実施いたしました。

山岳スキー競技とは、シールをつけて登り、シールを外してかかとを固定して滑る、いわゆる山スキーを使った山岳耐久レースです。この大会は過去10年間にわたって同会場にて続けられてきましたが、去年は参加選手の伸び悩みなどを理由に開催が見送られました。しかし選手や関係者の強い希望があり、再開するに至ったものです。

まず4月1日(土)に開会式とブリーフィングが栂池高原観光協会の建物を借りて行われました。八木原会長から、参加者を増やしてこの競技をもっと盛り上げて欲しい旨のお話をいただき、またご協力をいただいている長野県山岳協会の唐木会長からは、安全に配慮して運営しているので、精一杯頑張ってくださいと激励の言葉をいただきました。

今回は栂池高原スキー場のゲレンデトップから山中にかけて、男子がコース長14.8km、総標高差1360m、

女子が11.8km、1020mというコースを設定して、競技が行われました。またこの競技に体験的に参加してみたい人向けに、短くて易しいコース設定のチャレンジというカテゴリも新設しました。それも合わせて総勢61名の選手がエントリーしてくれました。

2日(日)の大会当日は、前日までの曇天とは違って変わり、11回目にして最高の見事な快晴となりました。9時30分に競技スタート。ゲレンデトップのレストラン前に設置されたスタートラインから号砲とともに一斉に選手たちが飛び出し、サーッサーッとシールを滑らせる音が響きます。コースを示す緑色の旗に沿って選手たちの長い列は、やがて林間に消えていきます。

レースは初優勝をねらう加藤淳一選手が、連覇中の藤川健選手をわずかの差でリードして前半を折り返し、結局その差でゴールまで逃げ切りました。加藤選手は6回目の挑戦にして初優勝、第一人者の藤川選手の8連覇を阻むこととなりました。女子はトレランのトップ選手でもある星野緑選手の独走で、初参加での優勝となりました。

リザルトを各カテゴリ上位について、掲載してお



きます。

今回新設されたチャレンジカテゴリーには6人が参加してくれました。中には7歳の小学1年生も含まれています。彼も一人で立派に完走し、選手や観客の歓声ももらっていました。このカテゴリーに参加された方々もみな、大会を大いに楽しんでくれたようです。また少年男女(10代)にも合計3人のエントリーがありましたが、今回は成年の部にも20台前半の選手が多く見受けられたのが印象的でした。彼らにはトレランやクロカンの経験者が多く、レースでの実力もなかなかもので、今後が楽しみな世代と感じます。

事故やケガもなく、また大会当日の運営も順調に進めることができたと思います。それは快晴の天気のおかげもありますが、長山協スタッフの皆さん、小谷・白馬のスタッフの皆さん、梅池の観光協会、スキー場関係者ほか、多くの方々のご協力のおかげと感謝しております。また参加してくれた選手の皆さんのご理解とご協力があったからこそできたことと思っています。

再開1年目はどうか無事に乗り切りました。数年前と比べると確実に、この競技が愛好家を増やしていることを実感します。国際委員会で引き受けたこの競技をこれから軌道に載せていくために、競技運営チー



ムの確立を急がなければならないと考えています。日山協会員の皆様のご理解とご協力を、これからもお願いいたします。(国際委員会 澤田 実)

2017年大会コース



※この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図25000を複製したものである。(承認番号 平28情復、第1296号)

— シール登行 — スキー滑降  
— つぼ足登行 —

男子) S-登り-A-登り-B-滑降-C-登り-D-ツボ足-B-滑降-Eを2周してG  
女子) S-登り-A-登り-B-滑降-C-登り-D-ツボ足-B-滑降-Eを1周半してG  
チャレンジ) S-登り-A-滑降-Eを2周してG

国際規格 成年男子 参加37			
順位	名	前	タイム
1	加藤	淳一	1 : 39 : 44. 9
2	藤川	健	1 : 40 : 10. 2
3	松澤	幸靖	1 : 49 : 43. 6
4	三浦	裕司	1 : 53 : 49. 0
5	伊藤	吉昭	1 : 54 : 23. 9
6	星野	和昭	1 : 54 : 38. 1

  

国際規格 成年女子 参加6			
順位	名	前	タイム
1	星野	緑	1 : 37 : 32. 7
2	加藤	倫子	1 : 51 : 20. 8
3	伊藤	真由恵	1 : 53 : 02. 5

  

国際規格 少年男子 参加2名(女子コースで実施)			
順位	名	前	タイム
1	松本	良介	1 : 43 : 02. 7
2	駒井	夏人	2 : 04 : 51. 5

  

国際規格 少年女子 参加1			
順位	名	前	タイム
1	駒井	野乃	2 : 13 : 08. 9

  

成年男子 ショートコース 参加9名(女子コースで実施)			
順位	名	前	タイム
1	杉村	航	1 : 43 : 13. 9
2	林	充憲	1 : 56 : 19. 7
3	太宰	智志	2 : 00 : 13. 7

  

チャレンジ 参加6			
順位	名	前	タイム
1	金子	あずさ	58 : 29. 3
2	渋谷	花恵	1 : 03 : 34. 2
3	大西	まり	1 : 11 : 26. 5

米国土最高峰(4,418m)の頂きを目指し、同時に本土最低地点(-86m)も訪れる

## 米国土最高峰 Mt. ホイトニー登頂と デスバレー国立公園 10日間

発着地 東京 出発日 8/1(火)・9/5(火) **限定 10名様**

旅行代金 ¥682,000~¥698,000

※燃油サーチャージ(2017年4月20日現在:目安約14,000円)が別途必要です。今後変更になる場合は、ご旅行代金ご請求の際にご案内いたします。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員/ボンド保証会員

**ALPINE TOUR SERVICE 株式会社**

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル4階 ☎03-3503-1911

大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557

e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

## 第102回 Mountain World

### 「スピード・クライマー」シュテック逝く

池田常道

前号で取り上げたばかりのウエリ・シュテック（スイス、40）が4月30日、ヌプツェで高所順応中に滑落死した。彼が落ちるところは、付近にいたシェルパ数名が目撃したが、6名の救助隊が駆けつけたときにはすでに死亡していたという。テンジ・シェルパ（24）をパートナーとしてエヴェレストからローツェへの無酸素縦走を目ざしていたシュテックは、周辺の山で入念なトレーニングを繰り返し、この日はウェスタン・クウムのC2からヌプツェ北面を登ろうとしていた。凍傷を負ったテンジが回復を待つ間に単独でヌプツェに挑んでいたもの。今回は、4年前にシェルパ軍団のリンチに遭って断念した野心的計画の再興だったことは、前号に書いたとおりである。

シュテックは、アイガー北壁を初めとするアルプスの大岩壁のスピード登攀で知られ「スイス・マシーン」の異名で呼ばれていた。シェルパのリンチを受けた年の秋には、アンナプルナI峰（8091m）南壁の新ルートを往復28時間で単独登攀した。このルートに彼は過去2回挑み、2007年には下部で落石を受け、翌年には東稜で行動不能に陥ったイニャキ・オチョア（スペイン）の救援に赴いて機会を失っていた。13年の成功は、春のエヴェレストで負った心の傷を癒し、ヒマラヤに対する情熱を取り戻す効果があった。

＊

1976年10月、エメンタールのランゲナウに生まれたシュテックは95年、18歳でアイガー北壁のオリジナル・ルートを友人と登った。2004年には10時間で単独登攀したが、当時すでにトーマス・ブーベンドルファー（オーストリア）が4時間50分で登り、クリストフ・ハインツ（イタリア）がこれを凌駕する記録をたたき出していた。アルピニストとして成長するために彼らの記録を打ち破ろうと決意したシュテックは、2007年に3時間54分、08年に2時間47分33秒、15年に2時間22分50秒と、3回にわたって最速記録を打ち立てている。

初めてヒマラヤに見参したのは2001年（24歳）のプモリ（7161m）で、隊長のウエリ・ブーラーと西壁の新ルート（1400m、M4）を登って頂上に立った。02

年にはエアハルト・ロレタンのチームに加わってジャーヌー（クンバカルナ、7710m）北壁に挑むが、これは6400mであえなく断念となった。04年にはロモロ・ノタリス隊長のスイス隊でアマ・ダブラム（6812m）南西稜を登っている。

これらの経験を踏まえて、29歳を迎える05年にはチョラツェ（6440m）北壁、タウツェ（6501m）東壁、アマ・ダブラム北東壁をまとめて登ろうとする「クーンブ・エクスプレス」計画に挑んだ。しかし、さすがに3本のバリエーションをソロでこなすのは難しく、最後のアマ・ダブラムは5900mで敗退となった。次の機会は06年夏に訪れた。カール・コプラー率いるスイス隊で、ガツシャブルムII峰（8035m）を中国・新疆側から登ろうとしたのである。しかしこれは、シュテックら3隊員が東峰に達しただけに終わった。

アンナプルナ1峰南壁では、70年英国ルートと81年イエティ同人ルートの間にあるクーロワールを狙ったが、前述したように、2007年と08年と続けて敗退。13年によく成功した。最初は単独で挑み、下部で落石を受けて転落したが、落ちたところが雪の吹き溜まりだったので、幸運にも無傷で済んだ。翌年は、同じスイスのジーモン・アンタマッテンとテンカンポチェ北壁を初登攀した勢いでBC入りしたものの、東稜の7400m地点で肺水腫のため動けなくなったイニャキ・オチョアの救援に赴き、最後は単身オチョアの元に駆けつけた。しかし、徹夜の看病も空しくオチョアは逝き、後続していた救助隊に悲報を伝える役目を担った。各国のクライマーを糾合したこの救助活動は、国際的に高く評価された。



「スイス・マシーン」ウエリ・シュテック

祝日「山の日」記念事業

## 山の日かながわ2016 in 陣馬山実施報告

祝日「山の日」を記念して、「チャレンジ!! ふるさと山を登ろう」をキャッチフレーズにして、一般公募にて陣馬山への集中登山と、登頂後の山上イベントを開催した。集中登山は、四つの登山コース(A 栃谷尾根コース、B一ノ尾根コース、C 和田第二尾根コース、追加で新ハイキングコース、和田峠コース)のそれぞれの登山口から陣馬山頂上を目指し、約2時間の登山となった。この日、夏の日差しも雲で遮られて、申し分のない登山日和のなか約300人の参加となった。

舞台となった陣馬山は、東京都八王子市と神奈川県相模原市の境にあって、標高855メートルと決して高い山ではない。「ミシュランガイド三つ星の観光スポット」として有名となった高尾山から「関東ふれあいの道」の稜線を西方に8km程辿った先にあり、ハイカーで賑わうほど人気がある。山名の由来は、戦国時代に北条氏を攻めた武田氏が陣を張った「陣場」からとの説、「萱(じん)」の刈り場であったとのことからとの説、馬の陣を張ったことから「陣馬」の文字が使われたからとの説がある。頂上付近は土塁状の地形となっており、古来の説を漂わせている。登山ブームの1960年後半に建てられたという白馬の大きな像が頂上に鎮座し、この山のシンボルとなっている。

頂上の眺望が素晴らしいことから、「関東の富士見百景」「かながわの景勝50選」にも選定され、南に丹沢山塊、西に寄って富士山・南アルプス、北には奥多摩・秩父、東に関東平野を展望することができる。陣馬山一帯は、東京都立高尾陣馬自然公園、神奈川県立陣馬相模湖自然公園に指定されており、山野草をはじめ自然が豊富で、その観察を目当てに訪れるハイカーも多



い。

この陣馬山を「山の日かながわ2016 in 陣馬山」の開催地に選んだ理由は、自然と触れ合いながら、幾つかの登山コースに分けて頂上を目指すことができること。男女老若のみんなが無理なく登山ができるポピュラーな場所であったこと。加えて、頂上の展望の良さと、イベントが開催に適した広さの頂上広場があったということである。

8月11日、思い思いの登山コースで約2時間の集中登山を終えた参加者で陣馬山頂上が賑わった。正午少し前から頂上直下の信玄茶屋の広場にて行われた祝賀式典が行われ、主催の挨拶に立った岡本安夫連盟会長から、祝日制定の意義を述べるとともに、この日を多くの人とともに楽しみましようとした。そのあと、多くの「ちびっ子を率いて登ってきた相模原市終身名誉観光親善大使の片山右京さんをはじめ、地元行政や観光関係の来賓から「山の日」祝日を祝う言葉が述べられた。

式典の後、餅つき大会、ジャンケン・ゲーム大会、こどもクラフト教室が行われ、それぞれのイベントを楽しんだ。餅つき大会では、力自慢の何人かが蒸し飯を杵でつきあげ、黄粉や餡仕立てにした出来立ての餅を皆で頬張った。ジャンケン・ゲーム大会では、賞品を獲得しようと盛り上がった氣勢で辺りが興奮に包まれた。こどもクラフト教室では、紙飛行機やゴム輪ピストルを「ちびっ子たちが製作に熱中。午後2時過ぎになって、「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」山の日」の1日が閉会となった。

(神奈川県山岳連盟 松隈 豊)

### 【お詫びと訂正】

先月号(277号)の表紙と6頁の「手箱山」は「雪光山」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

特別講演「山でのクマの新しい付き合い方」

山崎晃司先生

山と溪谷社の創立80周年を記念して創設された日本山岳遺産基金も7年目を迎え、恒例のサミットが2月25日(土)13時30分より東京神保町の山と溪谷社で開催されました。

日本山岳遺産基金は、日本の山の自然と文化を次世代につなげるため「山岳環境保全」「次世代育成」「安全登山啓発」をテーマに活動をしています。毎年、豊かな自然と人とのかかわりを有する日本の山岳地域を「日本山岳遺産」として認定し、積極的に活動している団体に助成を行っています。

サミットは川崎美雪山岳遺産基金会長のあいさつで始まり、次世代育成の一環として田部井淳子さんと共催で東北の高校生の富士登山を行ってきましたが、これからも高校生が1,000人登山するまで、田部井さんの意思をついで続けていきますと話しました。

第1部として今年の活動報告では、日山協のジュニア登山教室の報告も映像を使って発表されました。

そして、二か所の日本山岳遺産認定地と活動団体が発表されました。

1. 美瑛富士(北海道) / 山のトイレを考える会
2. 嘉穂アルプス(福岡県) / 嘉穂三山愛会

1は幕営地にトイレがない美瑛岳の美化に尽力しに、携帯トイレブースを設置、山岳団体に協力を求めが分担して管理にあたっている。

2は豊かな自然に恵まれた嘉穂三山は登山者に人気の山、登山道の整備と避難小屋を設置の活動をしている。



山崎晃司講師

第2部 特別講演 山崎晃司東京農業大学教授の「山でのクマの新しい付き合い方」

日本のクマはアジアクロクマ(ツキノワグマ)、北海道にいるヒグマは一万年前に本州から姿を消した。近年、里山の木が増え人里近くまでクマが生息しやすくなり、分布域が急増している。九州は絶滅し四国、中国地方には少ないが、関東では青梅や高尾までクマが分布、家畜、果樹、林業に被害を及ぼしている。クマの寿命は約20年、メスは体重が20kgになる4歳で子どもを産むことができる。最近クマが人を襲う例が多く報告されているが、その99.9%は急に人に会ったクマが驚いて逃げられずに襲ったものと思われる。

人を食糧として襲ったりしていない、ただ動物の死体は食べるので人が捕食された例はある。本来、クマは夜行性で行動範囲はかなり広いが、年老いたクマは山里の養魚場や鶏舎の近くに住み着いている場合もある。

山でクマの被害にあわないためには、次の点に注意!

1. どこにでも熊はいる!
2. 悪天候、見通しの悪い地形、沢筋、バリエーションルートなど要注意
3. 熊鈴は山の雰囲気壊すので要所で大声を出す、手をたたく、笛を吹くなど人の存在を知らせる。
4. トレールランなどクマの予測を超えるスピードの移動は危険
5. 山中での調理、ごみの廃棄に注意、木の実だけでなく、シカの死体を捕食している。

もしクマにあってしまったら、

1. 逃げたり、大声を出すのは危険! クマが突進してくる。
2. 落ち着いて向き合ったまま後ずさりする。もし、クマが襲ってきたら、ナタやナイフで戦う(リスクが大きい)か、図のような防御姿勢をとりやり過ごす。噛みつかれやすい顔と致命傷となる首筋を防護する。

(本木總子)



## UIAA理事会報告

### I UIAA(国際山岳連盟)理事会・総会

イギリスのシェフィールドで開催された。工業都市マンチェスターから列車で1～2時間東部に位置し、やはり工業都市ということになっている。この辺りは産業革命発祥の地であるが、行ってみた感じでは、大学都市という印象が強い。

今回、総会はなく、Management Committee (MC/理事)会のみで開催である。トピックスのみの報告となる。

日 程：2017年3月17日(金)～18日(土)

場 所：イギリス シェフィールド Showroom 会議室及びホテル会議室

日本からの参加：八木原会長、小野寺

#### 日 程

17日午後：非正規理事会、18日全日 正規理事会であったが、同じ議論もあり、報告の都合上、一度に報告する。

世話人 BMC Mr.Nick Colton , Ms.Anne Arran

#### 概 要

BMC 主管でイギリス開催とのことでアルパインクラブのメンバーが来るかと思ったが、誰も来ず、またBMCの幹部も来なかった。参加者も理事は中南米が財政的理由で不参加(アルゼンチンは Skype 参加)、専門委員会委員長も登山委員会、安全委員会、自然保護委員会など主だったところは不参加であった。という訳で全体的に低調であった。従って参加者は執行部/E B (Executive Board)を含めて20人足らずであった。ドイツは相変わらずE B提案に対して批判的であった。

以下、議題の主なものを記す。

#### 1. アイスクライミング

毎回の如くアイスクライミングのアピールであった。特に来年、2018年は第23回冬季オリンピックが韓国江



原道平昌で開催されるが、ソチ同様にオープン競技となる。E Bのトーマスが肝いりで韓国に行き、その準備状況を見て来たとのことで、施設の写真入りで、しかも長時間での紹介となった。当然その先には2022年の北京冬季オリンピック種目化を見据えており、パワーポイントの表現的にもほぼ決まったような書き方であった。話はそれるが、中国は冬季オリンピックにおいては山岳スキーも種目化の視野に入れている。スポーツクライミング界においても、影響を及ぼそうとしており、国家をバックにした長期的な戦略があるのかも知れない。

#### 2. アスリート委員会の設置

これもアイスクライミング絡みである。競技ディビジョンなるものを作って、従来のアイスクライミング委員会、アンチドーピング委員会に付け加えて、選手だけで選んだアスリート委員会を作りたいとのこと。しかし、これには異論が出た。先ず、委員会規程に抵触する、3委員会合同で1ディビジョンもおかしな話である等。これも比較的長時間の議論となり、ドイツのヨハンから、いい加減に方向性を見つけるようにとの動議が出た。結果的には継続審議となったが、何度か投票をやり直しがあり、後味の悪いものとなった。

#### 3. オブザベーション(傍聴)メンバーについて

傍聴メンバーと言えば聞こえはいいが、実は正規メンバーになるほど財政にゆとりがない連盟が、このカテゴリーに入る。従って投票権はない。中南米にはこのような連盟が比較的多く、アジアよりも多いと思われる。24カ国中、正会員は僅かに4カ国であり、2カ国が傍聴メンバーである。当初、非正規の会議の冒頭でこの議題が出され、正規メンバーにするために解決方法について意見を聞きたいとのことであった。そうは言っても個々の国の問題であり、解決方法など実際あるのか、何を聞きたいのかよく分からなかった。スタンダードの教育を行っているSteve Long (SV)が最初に発言し、登山教育を行って活性化したいとか、他の理事はコミュニケー



ションをよくすべきとか、何となくピンと来ない発言が目立った。日本においても組織化された登山者は1%程度でどのようにしたら組織に入ってもらうか、例えばスポーツクライミングも組織化して若い人を取り込もうとしているなどと発言はしたが、元々の話の筋からすると、違うなと思いながらであった。さらに他の国々では未組織登山者をどのような形で見ているか、取り込む意思はあるのかなど、逆に聞いてみたが、それが問題なのだ、との議長の一言があり、非正規会議は終了した。本会議においても、継続審議になり、よい解決案は出なかった。恐らく徴収する会費を個々の連盟の構成員数に比例させるとか(今は比例ではない)の提案をすればよいのかも知れないが、100万人の会員がいるドイツが反対するのは目に見えているし、他のヨーロッパ諸国も実質会費の値上げになるので、そんなことはしたくないのだと思う。

#### 4. Rock Climbing Award

インドアのスポーツクライミングが盛んだが、UIAAの中ではトラディショナルなクライミングにも目を向けようとのことで自然の岩場を相手に岩登りを行い、広めるワーキンググループ(WG)が出来ており、地域的(大陸)ごとに競技会を開催し、賞を授けようとするものである。地域ごとと言っても南アフリカやヨーロッパ、アメリカが主であり、アジア・オーストラリアは数年先の予定になっている。このあたりがどうしてもヨーロッパ中心の考えからは離れない。アジアと言っても広いし具体的にどのように考えているのか、と聞いても明快な答えは返ってこない。やはりドイツのヨセフが各委員会におけるWG設立はどのようにして承認されてくるのか、という根本的な問いを発したが、これも明確にはならない。実はドイツは事前にレポートを提出しており、現存する委員会及びその下部のWCを将来どのような方向に導くべきかMCの責任は重い、と言っていたが、なかなかそこまでは辿り着いていない。

#### 5. AlpinismをUNESCOの無形文化遺産にしたい

唐突な話ではあったが、FFCAM(フランス山岳会)からの提案で、UIAA名誉会員でFFCAMの会員でもエッカートさんが提案内容を説明してくれた。UIAAとしては積極的にサポートしていく方向との事。10月の総会に取り上げられる予定である。

#### 6. 医事委員会と他の組織との関連

医事委員会とISMM(国際山岳医学会)の覚書が交わされた。ICAR(国際山岳レスキュー協議会)も同様である。内容的には、世界中の山における事故において犠牲者の防止や治療に関する重要なルールを決めよ

うというものである。2016年において、ISMMはICAR医事委員会の協力オブザーバになっている。UIAAはISMMがUIAA医事委員会の協力オブザーバになってほしい、そしてまた近い関係を保ちながら、全ての団体がUIAAのUNITメンバーになると信じている。

#### 7. スカイランニングとトレールランニング

日本から確認の意味で質問した。スカイランニングとトレールランニングの違いは何かと。返答として前者は山の中で行われる競技であり、後者は平地を含むあらゆる場所で行われる競技であるとのことだった。国際スカイランニング連盟には日本も入っており、この国際連盟自体もまとめてUIAAに入っている。国際トレールランニング連盟は2013年に創立、2015年に国際陸連に認められたとのこと。

#### 8. 各委員会について

この会議の冒頭で、委員会の新委員長の決定と、各委員会の将来展望について午後に話すことになっていたが、前述のアイスクライミングに関するアスリート委員会の設置の討議が長引き、そのためにドイツから動議が出たが、結果的に会議終了時間に近づき、話し合いが出来なくなってしまった。継続審議が望まれる。

(小野寺 斎)

### UIAA MEDCOM MEETING at Kathmandu DATE: 27th March to 29th UIAA医療部会出席報告

日時：2017年3月27-29日 Kathmandu Nepalにて

UIAA医療部会年次集会は、今年は2017年27-29日、ネパールのカトマンズ、パタンにあるホテルサミットで行われた。この会議には別掲の写真にある各国代表が参加した。議事は以下の通り。今回は、新委員長George Rodway(U S A)が初めてChairすることになった。

1. 各国報告に関する討議。Germany, Japan, UK, Canada, Nepal, Italy, Czech, USA, Netherland, France, Taiwan計11か国から報告があった。昨年8月のTelluride会議から時間が経っていないこと、ネパールは遠いこと、などから、前回より参加者は少なかった。
2. 日本の報告は別紙のとおりであるが、組織名の改名が行われること、2020年東京オリンピックでの追加競技種目と決定されたスポーツクライミング種目について報告した。スポーツクライミングはUIAAが所管する種目ではないが、Ice Climbing競技を2022

年の北京の正式種目にしたいと考えているようで、UIAA-Medとしては、sport & ice climbingに共通する、medical regulation をまとめようとしている。また、一昨年（2015年）のネパール震災に伴う大被害を被った山岳地域（特にランタン渓谷）の状況について日本からの支援状況を報告した。

3. I K A R, W M S, I S M Mの三つの組織との連携を容易にする対応策。
4. U I A A Advice and Recommendations について。 [http://theuiaa.org/medical\\_advice.html](http://theuiaa.org/medical_advice.html) に現在23項目示されている。新たに作成中の「Z i k a感染症」論文と「糖尿病と登山」が詳細に討議された。
5. 昨年のTelluride会議議事録の承認。
6. アフリカ・インドでの事業報告
7. 次回のMe d - C o m会議。イラン代表がテヘランでの開催を提案した。しかし、我々だけでは解決できない国際政治上の問題が発生する可能性があり（例えばMe d - C o mの委員長は入国できない可能性が高い）今回は見送りとなった。日本はどうか、という打診もあったが、来年は難しいであろうと回答した。結局、2018年11月21 - 24日にカトマンズで行われる I S M M world meeting に合わせて行う。来年もまたカトマンズである。

(医科学委員長 増山 茂)



### 【委員総会のご案内】

#### 指導委員総会・研修会

期 日：6月3日（土）～4日（日）

会 場：東京晴海・海員会館

#### 遭難対策委員総会・研修会

期 日：6月24日（土）～25日（日）

会 場：神戸市立神戸セミナーハウス

#### 国際委員総会・海外登山技術研究会

期 日：7月22日（土）～23日（日）

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター

## 平成28年度アンチ・ドーピング活動

スポーツクライミングは2020東京五輪の実施競技となった。それに伴い、社会からの注目度は高まり、2年前には考えられなかったような資金が獲得できるようになった。それに伴い、アンチ・ドーピング活動もレベルアップしなくてはならない。ご褒美が大きくなった分、義務も増えるわけだ。

平成28年度の検査では、これまで実施できていなかった富山県南砺市でのジュニアオリンピックカップ大会で検査車両も利用して検査を行えた意義は大きい。世界ユース選手権が11月になり、8月のこの大会が選考大会となった事に伴い検査実施となったわけだが、付近に選手を管理する十分な施設がなく、交通の便の悪い場所での大会のために、選手の帰郷時間を考えたとき、検査実施には若干の不安があったが無事終了。すべての派遣選考大会で検査が実施できた。

アンチ・ドーピング研修会は中国ブロック（広島）、北信越ブロック（福井）、九州ブロック（長崎）で実施。J A D Aから講師を招いて代表選手（ユースを含む）への講習も2回実施した。今後、選手・指導者への情報提供の機会を増やす。ホームページなどを利用しての情報提供などを充実してゆきたい。



## 平成29年度スポーツライミング部 委員総会兼研修会

平成29年度のスポーツライミング部委員総会兼研修会が、4月2日(日)に岸記念体育館で開催された。参加者は44都道府県委員と役員・常任委員合わせて70名。委任4県。

開会に先立ち、3月に那須で雪山訓練中に雪崩に遭い、多くの死傷者を出した栃木県の高校生、指導者の御霊と、冬山登山事故防止を祈念し、黙祷を行った。

議事に入る前に、尾形好雄副会長・専務理事より、4月1日(登記申請は4月3日)から本協会の法人名称の変更が報告され、これに伴う組織改編について説明があった。新競技委員会については、パラクライミングに対応する委員会設置なども今後検討することが述べられた。アイスクライミング小委員会、山岳スキー小委員会については、それぞれUIAAやISMFというIF絡みの競技については、国際委員会に移籍する。トレラン小委員会については既に幾つかのトレラン全国組織が作られていることや、環境省の国立公園でのトレラン・ルール制定などが進んでおり、本協会としてはトレラン大会を主催しない方向で、当面は総務部扱いとする旨報告があった。

次に、森下競技部長より、競技部の組織内容について5月の総会まで未定の部分もあるが、すでに確定している組織担当について報告があった。競技委員長は村岡正巳、技術委員長は山本和幸、強化委員長は小日向徹、国体委員長は西原斗司男がその任にあたる旨報告があった。また、強化委員長の小日向徹がIFSC副会長として就任したことが報告された。

また、本年国体開催県である、櫛部一洋・愛媛県西条市国体準備室主査がスライドを用い国体会場の準備状況や説明を行い、本協会への協力依頼を行った。

### 【議案1 平成28年度競技部業務報告】

西原国体委員長より競技委員総会、競技部合同会議、競技運営委員会報告があった。その中で、国体予選会への聴覚障がい選手の出場に関し、対応の報告があった。

山本技術(審判)委員長より技術委員会報告があった。

小日向選手強化委員長より強化委員会報告があった。

その他、指導委員会から、瀧本指導委員長より日本体育協会公認スポーツ指導者制度について検討プロジェクト、基本計画について説明があった。

**Q:** この研修会等についてどこで調べれば良いのか。

**A:** JMSCAのHPでも探せばあるが、探しにくいので日本体育協会のHPで探して欲しい。HPの改善

を図る。旨回答した。

### 【議案2 平成29年度スポーツライミング部業務計画について】

村岡競技委員長よりスポーツライミングの指導、普及、大会の運営、指導者の養成、研修及びパラクライミング競技会等についての業務計画を説明した。

山本技術委員長よりルートセッターの養成、認定研修、競技規則、競技施設等の基準に関して説明した。

小日向強化委員長より配布資料に基づいて次の事項について説明が行われた。IFSCアジアACCの総会において、2018年のアジア選手権の鳥取開催の誘致が成功したこと。IFSCの総会においては、オリンピックフォーマット(全参加選手がスピード・ボルダー・リードの3種目を行い、その3種目の順位をかけて、低いものが上位になる競技形式なこと)と、オリンピック出場選手は、オリンピックフォーマットにより選考されることが、決まったこと。(単種目例えばボルダーの世界チャンピオンだけでは出場資格を得ることができない)こと。2018年のユースオリンピック、ブエノスアイレスでスポーツライミングが実施されることが決まり、2017年のYAについては7月のAYCHシンガポールと8/9月のWYCHインスブルックの2つで2018 YOGの選考大会として、オリンピックフォーマットが実施される予定であること。したがってYAはこの数カ月でスピードを含む対策を講じる必要があること。スピードへの対応が待たないこと。オリンピック出場選手の選考方法については2017年夏以降IOCのガイドラインをもとに発表されていくこと。通常ならば2020年に予定されている世界選手権を前年の2019年に前倒し、開催地として、日本(注意! JMSCA常務理事会誘致決議済)及び中国での可能性が言及されており来年の総会で決められること。5月にIFSC会長が来日する際にこの件を関係者で協議する予定であること。

また主にスポーツプレゼンテーションの向上を目的として、競技フォーマットやルールの見直しの指示を副会長としてIFSCのスポーツデパートメントSDに指示し、テクニカルコミッションやワーキンググループの設立が決まったこと。その委員への候補として、日本人3名を推薦したこと。今後日本は作られたルールを解釈する立場ではなく、ルールを作る立場になってほしいと思っていること。ここ数年で競技形式が根本から大きく変わる可能性があり。この変化に取り残されないようにしたいと思っていること。

この春から代表スタッフの3名がナショナルコーチ、専任、アシスタントとしてJOCの雇用扱いとなったこ

と。代表チームの運営は基本的に各ヘッドコーチにゆだねられていること。各チームの説明はボルダラーは安井・ヘッドコーチ、ユースは西谷ヘッドコーチ、リードチームについては星アシスタントコーチ、スピード競技については水村信二ヘッドコーチが説明した。

その他、他の競技団体やメディアから見た我々の協会やスポーツクライミング(含む国体)の印象や特異性と外部から指摘されたポイントについてのこと、実際の代表スタッフ・コーチと現在の指導者資格制度のねじれのこと、競技者育成プログラムの現状、クライミングジムの重要性、スタッフに求められる資質やその確保の必要性などを言及した。

西原委員長より、国体後催県からは予算的措置が伴うことから現行の競技種目での開催を、強く希望されているとの補足説明と、国体委員長の立場から、「国民体育大会は、47都道府県岳連そして高体連登山専門部の協力のもと予選会、ブロック大会を主管し、都道府県代表選手が本国体に出場している。本協会の基本は地方岳連である」と発言した。あわせて、日体協指導者制度のコーチ、上級コーチ資格者の任務・役割も重要だと説明。

国体委員会報告として、西原委員長が、少年種別の参加年齢について昨年の本総会で報告した「対象年齢」については引続き検討の域を出ていない旨報告。また、本協会名称に伴う「国体競技名称改称」は第74回大会(茨城)より『スポーツクライミング競技』と変更されることを報告した。また、来年の第73回福井国体リハーサル大会は、「日本学生スポーツクライミング対校選手権大会」に変更となることが発表された。

### 【議案3 国民体育大会山岳競技規則の改訂について】

①リード競技における、「レジティメイトポジション」②ボルダリング競技決勝での「競技時間が終了後、すぐにアテンプトを中断」のIFSCルール改正にともなう改訂提案・説明があった。

【議案4 国体ブロック別出場都道府県割当数】について、提案した。その後、一括の質問を受けた。

Q:(滋賀県)指導者研修の期日が分からない。

A:瀧本指導委員長より日体協のHPを検索して欲しい。

Q:(岡山県)選手登録についてのクライミングジムとの連携について

A:森下競技部長より各岳連との関係があり中々進まない旨回答があった。

Q:(鳥取県)スポーツクライミング部のセクションはどんな仕事をするのか分かりづらい。

A:森下競技部長より議案書17ページに記載されているので見てほしい。

Q:国体競技を五輪競技内容に統一できないか。

A:国体は固有の歴史があり、先ほども触れたが昨年の五輪追加種目決定後、複数の後催県実行委員会より「現行の競技内容での実施」を、強く要望されていると聞いている。今後の五輪競技の推移を見守りながら、総合的に判断し行動していきたい。

Q:(岡山県)ルートセッターの最新名簿が期限を過ぎても来ていない。

Q:(愛知県)ルートセッター、審判員の最新名簿についても。

A:事務局から回答するよう指示をする。

Q:(秋田県)(佐賀県)競技が国体とオリンピックの関係について中央と地方の温度差が感じられる旨意見があった。

Q:(高体連)ドーピング検査について、特に未成年者について同意書の毎年提出への対応に疑問。

A:選手登録との整合性を検討してみる。

そのほか、平成28年度のブロック別研修会での各ブロックからの質問について、

Q:(北海道)高等学校選抜クライミング選手権大会での監督会議の開催と高体連からの表彰授与。

A:(高体連)時間的に困難で、大会主催が日山協のため高体連からの賞状授与も困難である。

Q:(関東ブロック)インターハイでクライミング競技はないのはなぜか。

A:(高体連)インターハイ自体が規模の縮小に向かっている、その中でクライミング競技を増やすことは難しい。

最後に、拍手で確認し総会兼研修会を終了した。

### 【閉会の言葉】

森下SC部長より、「スポーツクライミングがオリンピック種目として参加できるまで競技部長を務める、と決めていた。5月の理事会を最後に競技部長の任を後進に譲ることにしました。これまでいろいろと応援していただきありがとうございました。」、と述べた。同様に、京才競技副部長も、「私も5月の理事会を最後とします。ありがとうございました。」と述べ、閉会を宣言した。

### 【火山防災に関する普及啓発資料】

内閣府では、火山災害時に登山者等が的確な避難行動をとることができるよう普及啓発用の映像資料を作成し、公表しています。

[http://www.bousai.go.jp/kazan/eizoshiryo/tozansha\\_shisetsu.html](http://www.bousai.go.jp/kazan/eizoshiryo/tozansha_shisetsu.html)

日時 平成29年4月6日(木)  
18時00分～20時40分

場所 岸記念体育会館・4F会議室

出席者 八木原会長、尾形・國松・高橋・  
亀山各副会長、小野寺、西内、森下、京  
才、瀧本、水島、仙石、中瀬、各常務理  
事、中島監事

○会議に先立ち那須で雪崩遭難死した  
方々に対して黙禱した。

## 1. 議事

- (1)平成28年度3月常務理事会議事録の承認について(事前送付済)  
異議なく承認された。
- (2)第4回理事会議事録の承認について(事前送付済)  
異議なく承認された。
- (3)平成29年度第1回理事会次第について  
小野寺事務局長が資料に基づいて提案した。提案内容の一部訂正で承認。
- (4)平成29年度総会次第について  
小野寺事務局長が資料に基づいて提案した。提案内容の一部訂正で承認。
- (5)平成28年度事業報告について  
小野寺事務局長が資料に基づいて提案した。提案内容の一部訂正で承認。
- (6)平成28年度日山協共済会事業報告について  
尾形日山協山岳共済会会長から資料に基づいて報告があった。栃木高体連の那須岳の件については全員が保険に入っていたが、保険支払いの対象かどうかは、後日の判断となる。報告は承認された。
- (7)キルギス・マウンテンスピリット参加者承認について  
小野寺事務局長が資料に基づいて提案した。応募は労山からもあるが、日山協は全国を統一する団体であり、引き受ける。異議なく承認された。
- (8)2017年リード競技日本代表選手承認について  
森下スポーツクライミング部長が資料に基づいて提案した。  
提案とおり承認された。
- (9)会長・副会長候補者の推薦について  
尾形副会長より説明。次期会長・副会長候補者については、前回(3/4)の理事会で承認されたが、その後現状の業務内容など考え、副会長と専務理事の兼任は難しいと判断し、専務理事に専心したいと会長に申し入れた。次に選任される副会長については会長・副会長候補者推薦委員会から改めて推薦頂き、5/13の理事会に諮って頂きたい。さらに内閣府からの指導もあり、筆頭副会長が山岳共済会の会長はどう考えてもおかしい。  
異議なく承認された。
- (10)国体功労者表彰対象者推薦

小野寺事務局長が資料に基づいて提案した。該当者なしで承認。

## 2. 報告事項

- (1)平成28年度2月・月次決算報告  
小野寺事務局長が資料に基づいて報告した。  
助成金、決算見直しなどについて質疑があった。
- (2)内閣府立入検査後の連絡  
小野寺事務局長が資料に基づいて報告した。共済会については、29年度事業計画の文面からすべて省くようにと指導があった。
- (3)新会館入館説明会報告  
小野寺事務局長が資料に基づいて報告。75㎡のブースを申込みする。
- (4)那須警察署照会について  
小野寺事務局長が資料に基づいて報告した。栃木高体連の那須岳の件についての警察署からの照会状。
- (5)サイバーセキュリティ調査・内閣府  
小野寺事務局長が資料に基づいて報告。
- (6)スポーツ庁・学校教育法一部改正  
小野寺事務局長が資料に基づいて報告。
- (7)選手登録集計データ  
森下スポーツクライミング部長が資料に基づいて説明した。

## 3. 指導員・審判員 検定結果報告

- 1 スポーツ指導者専門科目修了認定申請  
(1) A C 指導員  
岩手：(5/21～2/12：2/20申請)  
平賀照子  
神奈川：(9/25～2/12：2/13申請)  
富岡英俊、木村温恵、山口岳、中川雅之、田中将司、大沼芳人、山新真人  
(2) A C 上級指導員  
神奈川：(9/25～2/12：2/13申請)  
戸田優子、羽生田公明、松嶋秀樹、松嶋麻子、山下剛宏、春木俊秀、内村利宏、蛭田 亮、山本大貴、鈴木大地、志村英輔、久野由博  
以上の申請者は全員合格とし認定日は、3月6日とする。
- 2 審判員・ルートセッター検定結果報告  
森下競技部長から資料に基づいて説明があった。文章の一部訂正があった。提案については全員一致で承認された。

## 4. 後援報告、協賛等の依頼について

- (1)日本フリークライミング協会後援(全日本第3回マスターズクライミング選手権)
- (2)第19回北丹沢耐久レース・後援
- (3)BWC開催記念高尾山スプリングフェスタ後援
- (4)(一財)全国山の日協議会 山の日フォーラム後援
- (5)(一社)大阪府岳連「2017 Climbing Osaka CHAMPIONSHIPS」後援
- (6)福井県山岳連盟「里山と古道を訪ねて、五幡山と鹿森道」後援  
上記6点については異議なく承認された。

## 5. 専門委員会動静

(2月14日～3月31日)

### [報告]

- (1)ジュニア・普及委員会  
2月26日(日) 11:00～  
那須甲子自然の家 出席4名  
ア)報告事項と議題  
①平成29年度ジュニア・普及予算について(総額11,182千円)  
②ジュニア・普及情報交換会について  
2月11日(土) 国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催。総勢23名参加。講師5名。  
③なすかし雪遊び隊2017について  
・日本山岳遺産基金の講演会でチラシ70部配布  
④ジュニア登山教室立山2017について  
・8/17～20 日程で仮予約  
(2)国際委員会-1  
2月14日(火) 出席11名、委任1名  
ア)報告事項  
・海外登山奨励金(後期)選考結果選考委員会(1/16)  
K7隊とシスパーレ隊の2隊に各20万円ずつを交付。  
・キルギス山岳会 Mountain Spirit 2017 公募開始  
・国内WCM(1/21、22)荒船山に変更して開催 24名参加  
・平成29年度事業計画・収支予算  
・山岳スキー競技日本選手権進捗状況  
・海外登山懇談会日程 11/16(木)19:00～オリセン80人室 予約済み  
・IMFインド登山料2017年の値下げ  
イ)協議事項  
①平成29年度国際委員総会兼第56回海外登山技術研究会について  
7月22、23日 オリセン80人部屋 内容(テーマと講師)についてプログラムの確認。内容と時間振りを決める。  
②WCM参加者(アルパインクライマー)へのアンケートについて  
③国内外に向けてのHP案について  
外国向け「About Japanese Mountains」  
(3)国際委員会-2 3月9日(火) 日山協事務局 出席6名、委任8名  
ア)報告事項  
・山岳スキー競技世界選手権(2/24～3/2 イタリア)終了 男子5人女子2人参加  
・山岳スキー競技日本選手権(4/1～2)進捗状況について  
・アルパインクライマーへのアンケート  
イ)協議事項  
1. 平成29年度国際委員総会兼第56回海外登山技術研究会  
7月22、23日 オリセン80人部屋  
「新しいアルパインクライミングの可能性」パタゴニアの講演が無理とのこと、他の案は?  
2. 国内外に向けてのHP案について  
外国向け「About Japanese Mountains」  
ウ)その他  
海外登山奨励金事業や研究会事業を、もっと広く一般に告知してこそ意味があるので、開催告知や結果報告などをプレスリリースした方がいいのではな

- いか、と意見あり。
- (4)指導委員会-1  
2月6日(月) 19:00~21:00  
岸記念体育会館 14名出席、4名委任
- ア)夏山リーダー検討会(名称は、ハイキングリーダーに変わる)報告
- イ)遭対委員会(1/27~29 冬山レスキュー 土合山の家)報告  
本郷常任が参加した。
- ウ)関東岳連総会(2/4(土) 山梨県昭和村)報告
- エ)冬期指導常任研修について  
2月11日(土)10:00から都岳連事務所にてA Cの検定基準会議を行う。  
2月12日(日)10:00から都岳連事務所にてS Cの検定基準会議を行う。
- オ)大山氷雪技術研修(2/18-19)について  
研修:15名、主任検定委員:4名  
上級指導員:1名
- (5)指導委員会-2

- 3月6日(月) 19:00~21:00  
岸記念体育会館 出席14名
- ア)スポーツクライミング指導者養成  
・修了証の競技名の改訂について
- イ)H29年度年間スケジュール(別紙)  
・大山氷雪技術研修(2/18-19)について  
研修:17名 主任検定委員:4名  
上級指導員:2名  
主任検定員は全員更新:S A B実技実施、上級指導員検定を実施——全員問題なし  
上級指導員 2名とも実技は合格(渡邊利博、新原祐治)
- ウ)富士山氷雪技術研修会(4/29~30)について
- エ)H29年度指導員養成講習会の書類提出期限について
- オ)指導員総会について  
力)検定基準検討(山岳)について
- (6)競技部競技運営委員会  
1月13日(金) 19時~21時

岸記念体育会館 出席17名、委任4名

6. その他の重要事項

- 2月23日~4月1日
- (1)齋藤一男元日山協会会長逝去。  
享年93歳。2月2日(日)
- (2)日本選手権リード大会  
3月4(土)~5(日) 於:埼玉・加須市民体育館 八木原会長、尾形・亀山副会長、森下競技部長、小日向委員長、他
- (3)日本オリエンテーリング協会50周年記念祝賀会 3月5日(日)  
於:アルカディア市ヶ谷 八木原会長
- (4)I F S C総会 3月8日(火)~13日(月)  
I F S C総会 於:カナダ ケベック 八木原会長、小日向委員長、安井・西谷常任委員
- (5)第4回J O C - N F強化関係連絡・連携会議 3月10日(金)  
於:代々木第一体育館会議室 尾形副会長、小野寺事務局長
- (6)日体協競技団体評議員連合会総会 3月14日(火) 於:岸記念体育会館 尾形副会長
- (7)スポーツ安全協会評議員会 3月16日(木) 於:東海大学校友会館 尾形副会長
- (8)U I A A理事会 3月15日(水)~20日(月) 於:イギリス シェフィールド 八木原会長、小野寺常務理事
- (9)日体協評議員会 3月22日(水) 於:グランドプリンス新高輪 尾形副会長
- (10)J O C総務委員総会 3月23日(木) 於:岸記念体育会館 尾形副会長
- (11)第5回J O C - N F強化関係連絡・連携会議 3月28日(火) 於:岸記念体育会館101~103会議室 尾形副会長、小野寺事務局長
- (12)新館入居説明会 3月29日(水) 於:岸記念体育会館101~103会議室 尾形副会長、小野寺事務局長

寄贈図書

寄贈本	(株)日本標準	H29年度版「社会科資料集5年」
	(株)日本標準	H29年度版「社会科資料集6年」
雑誌	(一財)自然公園財団	「国立公園論」編:国立公園研究会・自然公園財団
	(株)山と溪谷社	「クマ問題を考える 野生動物生息域拡大期のリテラシー」著:田口洋美
会報	(株)ネイチャエンタープライズ	「岳人」No.839
	山と溪谷社	「山と溪谷」No.985
	山と溪谷社	「CLIMBING joy」No.16
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第598号
	横浜山岳会	「山」1018号
	(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.468
	(公財)京都府体育協会	「体協時報」第124号
	やまびこ山想会事務局	「やまびこ」第169号
	やまびこ山想会事務局	「愛知岳連ニュース」第422号
	(公財)全日本ボウリング協会	「JBCnews」第545号
	日本ヒマラヤ協会	「HIMALAYA」No.480
	大阪府立体育会館	「季刊 府立体育会館」No.120
	(公財)尾瀬保護財団	「はるかな尾瀬」vol.33
	FEEC	「VERTEX」270
	新潟県山岳協会	「新山協ニュース」第329号
	La rivista del Club alpino italiano	「Montagne 360」2017.4
	中華民国健行登山會	「中華登山」180 2017.04
	国立登山研修所	「登山研修」VOL.32
	神奈川県山岳連盟	「ときわ木」第172号
	(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」No.331
	HAT-J	「HAT-J NEWS」No.105
	東京都山岳連盟	とがくれん通信
	(公社)日本山岳会	「木の目草の芽」第127号
	(公社)国土緑化推進機構	「ぐりーんもあ」Vol.77
	korean Alpino Federation	「大山聯」Vol. 220
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」No.507
やまびこ山想会	「やまびこ」第170号	
(一財)日本防火・防災協会	「地域防災」No.13	
日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」第441号	
日本山岳会	「山」No.863	
東京野歩路会	「山嶺」VOL.94	
(公社)日本山岳会 山梨支部	「甲斐山岳」第9号	
玲峰グループ	「玲峰」Vol.86	
中国登山協会	「山野」2017 4 総224期	
おいらく山岳会	「山行手帖」No.689	

編集後記

I F S C ボルダリングワールドカップ八王子大会の決勝戦を大会当日NHKの深夜放送で見た。選手のアップ映像と平山祐示氏の解説でわかりやすく見応えがあった。残念ながら男女とも優勝できなかったが2位、3位の好成績でチケットも完売。2000人を超える観客数で大変にぎわったようです。(広報担当 水島彰治)

一般財団法人 日本トレイルランニング協会  
神奈川事務局  
〒252-0184  
神奈川相模原市緑区小淵1545-1  
☎042-687-4011 FAX 042-687-3980  
E-mail kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

妙高赤倉マウンテンレース  
パーティカル5K & トレイルラン25K

NPO法人 北丹沢山岳センター  
神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会  
事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1  
TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980  
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

- 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- 陣馬山トレイルレース実行委員会
- 道志村トレイルレース実行委員会
- 八重山トレイルレース実行委員会
- 東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会
- 上野原秋山トレイルレース実行委員会

大会々長 杉本憲昭

登山月報 第578号

定価 110円(送料別)  
予約年間 1,300円(送料共)  
昭和45年12月12日  
第三種郵便物認可  
(毎月1回15日発行)

発行日 平成29年5月15日  
発行者 東京都渋谷区神南1-1-1  
岸記念体育会館内  
公益社団法人  
日本山岳・スポーツクライミング協会

電話 03-3481-2396  
FAX 03-3481-2395

山岳  
雑誌

# 岳人

山と人、  
時代をつなぐ  
「岳人」。

ひとたびページをめくると、先鋭的な現役クライマーから、散策を楽しむ登山愛好者、一線を退いた往年の登山家まで、“岳”を愛するすべての人々の想像力と冒険心をかきたてる、そんな存在でありたい。山の魅力や楽しさ、そこで生まれた文化を伝え、山と人との関係をより良いものにしたい、そんな思いを込め「岳人」をお届けします。

## 年間購読がおすすりめです。

**購読割引** **送料無料** **限定品プレゼント**

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常本体価格12冊 年間購読12冊  
**8,160円** (+税) → **7,480円** (+税)  
(税込8,812円) (税込8,078円)

1年間で680円  
1冊分無料

### 年間購読特典

岳人オリジナル  
コンパクトフォームパッド

年間購読を  
お申し込みの  
みなさまに  
プレゼント!



使用サイズ  
33×26×0.8cm



6月号  
5/15発売

「岳人」2017年6月号

### 特集 秘境探訪

全国の秘境紹介(知床沼/白神山地/鶏岳北東域他) / 角幡唯介エッセイ「秘境を越えて、その先へ」他

本体価格 680円 (+税)  
★モンベルのウェブサイト、全国のモンベルストアや書店にて発売中!

年間購読  
お申し込み方法

◎ウェブサイトで  
<http://www.gakujin.jp>

◎お電話で(受付後に振込用紙をお送りします)  
0120-982-682 / TEL 06-6538-5797  
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

◎全国のモンベルストアで  
<http://store.montbell.jp>

初めて、  
という不安。

ここから始まる、  
という希望。



未来は、  
希望と不安で、  
できている。

明日をつよく。三井住友海上

[www.ms-ins.com](http://www.ms-ins.com)

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上

# あなたの 山岳保険は 大丈夫ですか？

山岳保険の加入は登山者のマナーです

日山協山岳共済会 〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail [sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp](mailto:sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp)

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。  
公益社団法人 日本山岳協会 携帯サイト  
( [www.jma-sangaku.or.jp/mobile/](http://www.jma-sangaku.or.jp/mobile/) )



WEBからもお申込みいただけます ( [www.sangakukyousai.com](http://www.sangakukyousai.com) )